



楽しさ満開！ 春は出会いの季節

4月×日

いよいよ新年度がはじまった。今日は身体測定の日。昼から校門で立ち番だ。

1年生が何人か溜っている。そのうちのひとりが「あの先生、わたしの数学の先生やねん」と、わたしを他の友だちに紹介してくれている。せっかくだから、その子に「そうやったんやあ」と声をかけた。そうしたら、まわり子どもたちが「え？ 男？」とか言ってきた。「さあ、どっちやろ」とわたし。「声低いし…」とその子。そしたら、わたしが担当している子が「え～女の人やで」とその子に言っている。そう言えば、1時間ほど前にわたしの声を聞いた1年生が「男やったんや」とか驚いていた。

毎年1年生との出会いは楽しいなあ（笑）。

* * *

さて、わたしの自己紹介の続きです。

毎年1年生は、わたしの（だいたい）女性の外見と、その外見にそぐわない低い声とのギャップにとまどうようです。低いと言っても、かつて所属していた合唱団ではテナーパートを担当していたので、男性ならば高い声なんですけど…。

すごく簡単に言ってしまうと、わたしはMTFトランスジェンダーです。ちなみに、職場ではほとんど誰にもカムアウトしていません。もっともすぐにバレるみたいですが（笑）。

例えば最初の授業で自己紹介をしますが、そのことには触れません。そんなことより、最初の授業できちんと言わなければならないことは、他にたくさんあります。例えば、それは数学の授業の受け方であったり、教員としてのわたしの立ち位置であったり、生徒たちとのこれからの人間関係のつくりかたであったりします。ですから、まずはそのことをたっぷりと話すことにしています。

わたしにはさまざまな「属性」があります。たしかにトランスジェンダーであることは、わたしにとってとても大きな「属性」です。でも逆に、たくさんあ

る「属性」のうちのひとつでしかないとも言えます。では、子どもたちにとって最も必要なわたしの属性はなにか。それはきっと「数学の教員である」ことなんだと思います。だからこそ、教員として教室で勝負することにこだわりたいと思っています。

子どもたちは5月頃まではたいていわたしの性別を知りたがります。ところが、中間試験が終わる頃には、わたしの性別を気にする子はほとんどいなくなります。直接教えていない子どもたちはまだ気にしているのですが、2学期がはじまる頃にはそんな子も気にしなくなるようです。それでいいと思っています。

「今日」の日記に出てきた1年生との出会いの直前、2年生の子どもたちと校門でなんとなく話をしていました。

「先生、何やってんの？」「日記（実はこの原稿）書いてるねん。ほら（と言って、冒頭の部分を見せる）。去年、自分らこんなんやったやろ。毎年1年生との出会いはおもしろいねん（笑）」「ふ～ん、そやけど先生、しんどいことない？」「あるよ。でも、それってネタやん」「先生、強いなあ」「強いわけちゃうで。そやけどな、おかげさまで、わたしには全国に仲間がいるし。それにな、こんなわたしやから君らは話をしてくれるんやろ？」「うん」「それがうれしいやんか」

実は、こんな会話の直前に、その子は「高校に入ったら、友だちと関係つくるのがむずかしくなった」と話をしてくれていました。

いろんな話を子どもたちとします。その中にわたしのさまざまな「属性」が混じります。そうやってわたしの「全体」と子どもたちがつながる時、「トランスジェンダー」という属性もまた、子どもたちは受けとめてくれるようになるのかなと思います。

さあ、今年は1年生とどんなふうにつながっていくんだろう。ドキドキワクワクの1年がはじまります。
（土肥いつき 高校教員）